

教養コース 社会保障学

## 第1回 日本の医療現場の実態

先進国最少の医師数と最低の医療費

先進国一番高い自己負担

平成30年6月16日(土) 10:00~12:00

講師：本田 宏氏 (NPO 法人医療制度研究会副理事長)

参加者：33名

最初に自己紹介がビデオを使って和やかに、ユーモアを交えて行われたので、受講生の緊張が和らげられたところで講座が始まった。

最初に、日本医療・社会保障体制の実態についてお話が始まった。

先進諸国と日本を比較し、日本の医療の自己負担率は割高になっている。

また、日本の医療機関が受け取る医療報酬

点数(診察料や検査・手数料)は、先進国最低レベルに抑制されているのに薬剤価格は先進国最高と言う理不尽な価格設定になっている。これらがグラフを使って説明された。

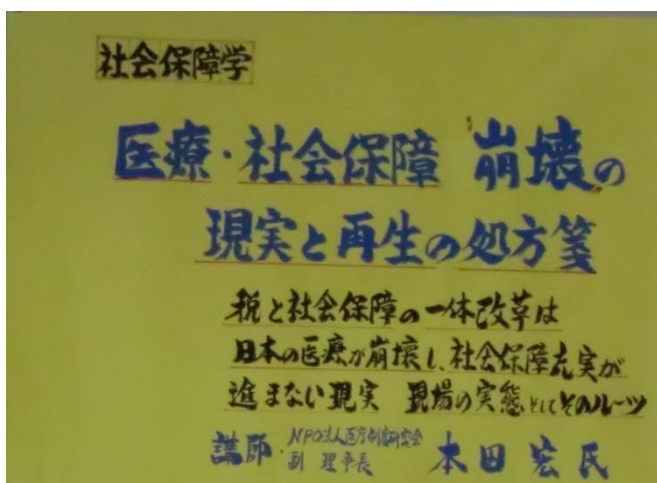
医師の絶対数不足、早急に増員する心要がある。

OECDと比較して、約10万人不足している。

医師数は、世界(OECD)に比べ少なくその差が拡大している。

都道府県は(従業地)別にみた医療施設に従事する人口10万対医師数では埼玉県は1601人で全国最下位である。(平成28年12月31日現在)

ここで、ビデオにより埼玉県内のある総合病院の1人の医師の1日の勤務状況が紹介された。朝の打ち合わせ、手術、回診、夜勤、仮眠とほぼ休みなく1日が過ぎてしまう実態が。



講師は、外科医として長く現場におられたので、医療の現場からの目線での講座はとても新鮮に感じられた。

報告者 三上 聡雄

